

## 令和4年度 岡山県立矢掛高等学校 第3回運営協議会議事録（要点）

日時 令和5年2月16日（木）  
14:05～16:50  
場所 矢掛高等学校 会議室

### 1 開会

会長挨拶 本年度最終の協議会である。県立高校再編の方針も昨年に変更されたところであるが、各県立高校もそれぞれの取組を行っており、私立の高校は独自の取組を展開している。見習うべき点は見習いながら、この協議会でも知恵やアイデアをしっかりと出してほしい。

校長挨拶 多くの学校運営協議会では、委員による助言にとどまっていることが多いが、本校の協議会はさまざまな視点から一緒に考え、本校生徒の成長が矢掛町の魅力になるようにしていきたい。本日も忌憚のない御意見をいただきたい。

### 2 説明・協議（▷：矢掛高校の応答）

#### （1）令和4年度学校自己評価アンケート

・アンケート結果の概要説明を行った。

（委員）保護者の肯定的回答が昨年度よりも高くなっているが、それはなぜか。

▷保護者への真摯な対応等の結果であり、本校の教育方針等を理解してくれる保護者が増えているものと考えている。

（委員）質問⑩生徒の満足度73.4%の要因は何か。

▷本校は80%以上を目指して教育活動を行っているが、そこまで達していないのが現状である。また、科・コース・学年にも幾分差があり、学年を追うにしたがって低くなる傾向もある。その要因は、一概には言えないが、コロナ禍で学校生活全般に制限が加わったこと、学校内での個々の活動に達成感が今一步感じられなかったためかもしれない。

#### （2）令和4年度学校自己評価（最終）の説明

・4課の課長が自己評価の説明を行った。

（委員）担任との6回以上の進路面談を実施する中で、悩みをかかえた生徒を認知できているか。

▷家庭環境、本人の生活状況なども聞き取り、生徒を理解した上で進路指導をしている。面談の中では、担任に悩みを打ち明けるケースもあり、その後の生活指導や進路指導に活かしている。

（委員）探究的な学習をカリキュラムに位置づけ、キャリア教育を結び付けることは大変重要である。その具体と課題は何か。

▷菌っ子だっぴ、やかげ学、やかげ学実践は総合的な探究の時間として位置づけており、その活動自体が探究的学習である。その学習の中で人と出会うこと自体がキャリア教育であると考えている。

(委員) それぞれの活動により「どのような力」を身に付けさせるのか、その結果として「どのような生徒」を育成したいのか、明確にしておく必要がある。満足度が各科、コース、学年によりばらつきがあり、80%の目標に届いていない。本当の意味で進路実現ができているのか、各分掌が指導できているのか、それらの指導が子どもたちに伝わっているのか、今一度、考えてみる必要があるように思う。

(委員) 自由記述には、服装頭髪や「やかげ学」などについての指摘と意見がある。自由記述を再度確認し、各担当で前向きに対応を検討していくことが大切である。

(委員) 先生方はよくやってくれており、その一方で高校生は忙しい。幸い、矢掛高校は生徒一人にかかわる教員が多いので有難い。しかし、いい意味で「放置される時間」が必要ではないか。その時間の中で個々が考えることができるので、自己主張などもしていけるようになるのではないか。また、自分の進路を決定するためにも、他の話や情報を整理する力をつけさせるべきである。

(委員) 与えすぎは、他人に責任を転嫁する人間を育ててしまう。追い込まないようにすることも必要ではないか。

### (3) 質疑応答

(委員) 大学では課題発見力、課題解決力が重視される。じっくりと3年間をかけて育ててほしい。

(委員) 「無駄」という名のゆとりが大切であり、これこそが教育である。

(委員) 「白紙」が必要である。それを前にすると考えることが必要になる。

(委員) 無駄は個々により異なる。周りがとやかく言わなければよい。

### (4) 教育活動の進捗状況と今後の課題について

(校長) 再編整備基準の変更があったが安心していない。備西地区では少子化が進む一方である。そういった中で、改めて矢掛町における12年間の切れ間のない教育が不可欠と考える。「魅力ある高等学校づくり」というが、矢掛高校の魅力化ではなく、矢掛高校の生徒の成長が矢掛町の魅力化につながっていると考えている。「教育環境が整った矢掛町をよかったら見てください」というスタンスで、生徒の成長と教育内容の充実を図っていきたい。また、広報活動でもこのスタンスを堅持していきたい。そして、町や地域で教育環境について共有することが大切であり、そういった中で、本校は様々な活動をブラッシュアップさせていく。

- ・機動力ある中堅教員の確保、常勤化や臨時増の維持も含めた教員数の維持、地域連携活動に造詣あるいは関心のある教員配置などの要望を示した「教職員の採用その他

の任用に関する学校運営協議会具申（案）」の審議を行った。委員からは、教員定数法もあることなので難しい点もあるが、県教委の柔軟な対応を強く望む、などの意見をいただいたので、その旨を具申に入れることで了承された。

(委員)「こんな大学生になりたい」というあこがれが必要である。提案であるが、岡山大学と矢掛高校との学生交流を行ってはどうか。たとえば、矢掛高校で岡山大学の大学院生による最先端の話を聴いたり、高校生が岡山大学に実際に行って刺激をもらったりする。そのような交流をする中で、高校生の学習に対する意欲も高揚されるのではないか。そのような環境を整備することが大切である。

(委員) 交流事業は可能である。教育学部ではインターンシップが課されている。お互いに勉強になるよい取組である

(委員) 情報提供をさせていただきたい。大東建託は岡山県に住む 20 歳以上の男女、8509 人を対象に幸福度調査を実施し、その結果を「いい部屋ネット 街の幸福度 自治体ランキング〈岡山県版〉」として発表した。その結果、矢掛町が唯一偏差値 70 台の高い評価を受け、幸福度県 1 位、全国 6 位となっている。矢掛町は江戸時代に旧山陽道の宿場町として栄えた歴史の町であり、毎年多くの観光客が訪れる。一方で 18 歳以下の医療費無料や保育料の完全無償化、結婚・出産・入学祝金など、ライフステージにあわせた支援施策を展開している。このように生活と観光のバランスが取れた暮らしやすい矢掛町が 1 位になった要因は明確である。矢掛高校で実践している「やかげ学」のバックボーンとしても使えるのではないか。

(委員) 活発な議論が行われているこの学校運営協議会も含めてモデルケースとなるのではないか。

(委員) 矢掛高校を卒業してよかったと思える。過去よりも輝いているように見える。協力体制ができています。矢掛町が魅力化する中心になるのではないか。

#### (5) その他

- ・なし

### 3 連絡

- ・『SDG s de 地方創生』ゲーム体験会 について

### 4 閉会

副会長挨拶 具申案も承認された。子どもの幸せ、その次に地域の幸せを考える。順番が大事である。この点を共通理解していただき、今後もお力を貸していただきたい。